

■適性能得点と評価

適性能得点	G知的	V言語	N数理	Q書記	S空間	P形態	K共通	F指先	M手腕
159	161	140	159	126	125	129	94	98	
順位	2	1	4	2	6	7	5	9	8

適性能レベル	適性能得点										
	170	165	160	155	150	145	140	135	130	125	120
A											
B											
C											
D											
E											

評価段階	G知的	V言語	N数理	Q書記	S空間	P形態	K共通	F指先	M手腕
	認知機能				知覚機能			運動機能	

コピーライター

(株)プランダム
丸山智子さん (28歳)

大学の法学部政治学科を卒業後、出版社での編集業務を約1年経験。不動産広告制作会社に移り、アシスタントを経てコピーライターに。3年勤務の後、2010年3月より現在の会社にコピーライターとして勤務。



丸山さんの
職業適性
判定

●得点が高く出ている適性能

- 1位：V 言語能力
- 2位：G 知的能力 / Q 書記的知覚
- 4位：N 数理能力

●適性能が活かせると思われる職業例

- VGQ：新聞記者、コピーライター、インストラクター、教員 等
- VGN：マーケティングリサーチャー、イベントプランナー、人文科学系の研究者 等

コピーライターの仕事に必要とされる、言語的な理解力や言語を使いこなす「言語能力」、新しいアイデアを生み出すのに必要な「知的能力」が高く、「文字や数字の理解力が特に優れている」という特徴が見られる。仕事を通して、それらの能力にますます磨きがかかると思われ、また「数理能力」も高いため、将来的には企画等、職域を広げていける可能性も秘めている。

大学時代、学園祭の実行委員を務めた丸山さんは、宣伝活動などに携わるうち、言葉によって人に楽しさを伝えることの魅力を知り、コピーライターとして働きたいと就職活動に取り組んだが、就職難の買い手市場の年でもあり、ほとんど全滅。

「卒業後5月になってやっとある出版社に入りました」

編集プロダクション業務も行っていたその会社では、編集を中心に取材や原稿執筆などの仕事をしますが、丸山さんのやりたいコピーライターの仕事とは違って

た。1年後、やはり希望の職種に就きたい気持ちがあり、不動産関係専門の広告制作会社にアルバイトとして入り、一年半のアシスタントの後コピーライターとなる。そして経験を積む中で、他業界のライティングへの意欲も高まっていたところに、会社事情も重なり退職。

そういった中でも丸山さんは自己研鑽を続けていた。

「コピーライターの講座などには通っていました」

そして2010年3月、広告代理店である(株)プランダムに入社。コピーライティング、企画づくり等に当たっている。

小さい頃は手製の壁新聞を自作したり、最近ではブログに書いた趣味の演劇評が知人の目に留まり、寄稿を依頼されたりしているという丸山さんは、言葉を推敲して文章を書くことで人に伝えるという仕事に根柢からお好きなようにお見受けした。

厚生労働省編一般職業適性検査(GATB)の結果は、全体的に得点が高く、特に知的能力、言語能力、書記的知覚に優れ、コピーライターの所要基準点を完全に満たしていた。

「今まで好きだから、というだけでこの分野の仕事に関わってききましたが、能力適性の面でも裏づけをもらったような気がしてよかったです」

昔から文章を書くことが好きではあったが、こういった形で客観的な指標を得ることはあまりなかったという。

「私自身、社会人として5年ほど経験してきて思うのですが、キツイ仕事でも、好きなことなら頑張れるのではないのでしょうか。また、これまでのすべての経験は何らかの形で現在につながっていて、無駄なものはないかと思えますね」

(「職業研究 2010年春季号」より)